

あとがき

R S P 事業は、公募によらず、コーディネータの目利きにより育成試験テーマを選定実施し、実用化を図るというこれまでになかったユニークな制度で、開始当初、地域に大きなインパクトを与えた。また、R S P 事業開始直後に、熊本T L Oも承認T L Oとして活動を開始したことから、R S P 事業、T L O事業が互いに連携した活動展開が図られた。

当時、地域結集型共同研究事業、地域先導研究の2大プロジェクトが進行中で、それらをベースに都市エリア産学官連携促進事業が採択され、また地域コンソーシアム研究開発事業の採択が進むなど、この5年間は熊本県にとって、産学官連携の取り組みがこれまでになく活性化した時期であった。

R S P 事業を進めるに当たっては、研究シーズの実用化もさることながら、当時進行中の大型プロジェクト終了後、次の時代のプロジェクトのシーズになりうるテーマを育成することをも念頭に置いて、活動に取り組んできた。

5年間の活動の前半は、シーズを幅広く探索し、後半はそれを絞り込んで成果の達成を目指す活動になったように思う。そのなかから、製品化、実用化に繋がるものもいくつかでてはきたが、次世代の大型プロジェクトを目指すには、まだまだ道半ばという感じである。

育成試験における技術の特徴として、電磁気現象と生体・バイオとの関連技術がいくつか見られた。

パルス放電による微生物殺傷技術、プラズマ放電に伴うオゾン発生による土壌殺菌、電界によるH I Vの選択的殺傷、水中衝撃波による殺菌技術、など物理的に微生物を殺傷しようという試みがある一方、生体疑似信号を加えることで生体組織細胞を活性化する技術、電気パルスと温熱を同時印加することで、生体を正常化し、体脂肪を減少し、ガン治療にも効果が期待できる技術など相反する効果を求める技術も見られる。

これらをうまく集大成すると、何か大きなプロジェクトの種になるのかも知れないが、それは今後の検討課題としたい。

育成試験と育成試験によらないコーディネート活動とは、それぞれ車の両輪の関係としてR S P 事業を特徴づけていた。大学のリエゾンオフィスとの連携や、くまもとテクノ産業財団の有する中小企業支援に関する諸機能との連携により、活動を効果的に進めることが出来た。地域の各種任意団体とも連携を取り、これらの活動にきめ細かく参加していくことにより、地域に密着したコーディネート活動の実現に努めた。公募事業への提案は、採否よりも提案に至るプロセスに意義があるということから、出来るだけ多数の応募に努めたが、結果的に力になれなかった申し訳なさも数多く味わった。

5年間の活動は今にして思えばあっという間に終了したが、科学技術コーディネータという職名が、今後の県独自の事業の中に継承される運びとなった。

今後、地域におけるコーディネート活動を進めるに当たって、これまでのR S P 事業

で蓄積したシーズ・ニーズ情報、ネットワークなどの資産を最大限に活用し、新たな組織運営体制のなかで、これまで以上に地域の科学技術の振興に尽力していきたいと考えている次第である。

最後に、これまでご指導頂いた独立行政法人科学技術振興機構を始め、財団法人全日本地域研究交流協会、熊本県、並びにR S P事業を支えて頂いたすべての関係者の方々に心より感謝の意を表します。